



大学図書館問題研究会第 32 回京都支部総会 を開催しました

日 時：2009 年 7 月 24 日（金）19:30-20:30
場 所：季節料理 門（京都市左京区田中門前町 8）
参加者：12 名

- 【第 1 号議案】2008 年度（2008.7～2009.6）活動総括及び
2009 年度（2009.7～2010.6）活動方針
- 【第 2 号議案】2008 年度（2008.7～2009.6）決算案及び
2009 年度（2009.7～2010.6）予算案、会計監査報告
- 【第 3 号議案】2009 年度大学図書館問題研究会京都支部役員候補

支部事務局から第 1～3 号議案について提案と説明があり、質疑・検討の後、原案のとおり了承されました。

当日の議事メモ・補足事項等については 8 ページをご覧ください。

2009 年度は別記、「2009 年度大学図書館問題研究会京都支部役員」を中心に、「2009 年度（2009.7～2010.6）活動方針」及び「2009 年度（2009.7～2010.6）予算」に沿って支部活動を運営していきます。引き続き、支部活動へのご参加と支部運営へのご協力をお願いいたします。

[目 次]

大学図書館問題研究会第 32 回京都支部総会を開催しました	…	1
2008 年度活動総括及び 2009 年度活動方針	…	2
2008 年度決算案及び 2009 年度予算案、会計監査報告	…	5
2009 年度大学図書館問題研究会京都支部役員	…	7
大学図書館問題研究会第 32 回京都支部総会 議事メモ・補足事項	…	8
京都支部ワンディセミナーに参加して	伊賀 由紀子	… 9
大図研京都支部ワンディセミナーの感想	久保山 健	… 10

○ ご意見・ご要望、投稿は下記、電子メールまたは URL へお寄せください。

電子メール：dtkk@rg7.so-net.ne.jp（大学図書館問題研究会京都支部）

URL：http://www009.upp.so-net.ne.jp/dtkk/index.htm

<h2 style="margin: 0;">大学図書館問題研究会第 32 回京都支部総会議案</h2>
--

2008 年度 (2008. 7～2009. 6) 活動総括及び
2009 年度 (2009. 7～2010. 6) 活動方針

1. 2008 年度活動総括

(1) 研究交流活動

2008 年度は以下のように、2008 年 12 月および 2009 年 6 月に大図研京都ワンディセミナーを開催し、2 回以上のセミナー開催を謳った年度目標を達成できました。1 回目は電子リソース提供に関わる最新のテーマを取り上げ、2 回目は場としての図書館をテーマにして久しぶりの見学企画を行いました。いずれも当日実施したアンケートで好評をいただいています。

なお、2008 年度はセミナー広報に関わる初の取り組みとして、従来のメーリングリスト等のみならず、京都市内の図書館に案内チラシを送付しました。1 回目は、京都府内の大学図書館、2 回目については、府内大学図書館および京都市内の公共図書館を対象にしています。

1) 大図研京都ワンディセミナー「OPAC による電子リソース検索とオープンアクセスコンテンツの活用」

日時：2008 年 12 月 7 日 (日) 14:00～16:40

講師：伊藤民雄氏 (実践女子大学図書館)

場所：京都市国際交流会館 第 2 会議室

参加費：大図研会員は無料／非会員は 500 円

参加者数：35 名

2) 大図研京都ワンディセミナー「『場としての図書館』を形にー京都大学附属図書館ならびに人間・環境学研究科総合人間学部図書館の例」

日時：2009 年 6 月 13 日 (土) 13:15～16:00

案内兼発表者：原竹留美氏 (京都大学人環・総人図書館)

山崎千恵氏 (元京都大学附属図書館、現人環・総人図書館)

場所：京都大学附属図書館および人間・環境学研究科総合人間学部図書館

参加費：無料

参加者数：38 名

(2) 支部報

発行期日の遅れは生じましたが、所定の号数を発行しています。セミナー等の感想や参加報告を掲載し、セミナー等に参加できなかった支部会員への情報提供をはかるとともに、「本の紹介」等のシリーズ記事も復活させています。また、寄稿については、会員はもとより非会員からも幅広く得ることができました。

今年度、発行した支部報の目次は、次のとおりです。

1) 支部報 No.265(2008/08/15 発行)

- * 大学図書館問題研究会第 31 回京都支部総会を開催しました
- * 2007 年度活動総括および 2008 年度活動方針
- * 2007 年度決算案および 2008 年度予算案、会計監査報告
- * 2008 年度大学図書館問題研究会京都支部役員
- * 大学図書館問題研究会第 31 回京都支部総会 議事メモ・補足事項
- * 大図研京都ワンディセミナー「大学図書館と著作権」参加報告(宮嶋牧子)

2) 支部報 No.266(2008/10/15 発行)

- * 京都ワンディセミナーのご案内
- * 全国大会参加報告 その 1 参加しないとわからない！全国大会とは。(山下ユミ)
- * 支部委員挨拶
- * 全国大会参加報告 その 2 第 39 回全国大会(福岡) 全体会での京都支部からの発言について(赤澤久弥)
- * 大学図書館問題研究会忘年会開催のお知らせ

3) 支部報 No.267(2008/12/15 発行)

- * 新春合同例会の案内
- * 第 10 回図書館総合展参加報告：全図書館関係者が参加できる一大祭典へ(佐藤翔)
- * 第 10 回図書館総合展報告：総合展の舞台裏(池田貴儀)
- * 大図研京都数珠つなぎ(長坂和茂)

4) 支部報 No.268(2009/02/15 発行)

- * 大図研京都ワンディセミナー開催報告
- * 大図研京都ワンディセミナー「OPAC による電子リソース検索とオープンアクセスコンテンツの活用」参加報告
 - 電子リソースの時代に大学図書館がやるべきことは？(筑木一郎)
 - 電子リソースの活用を考える－ワンディセミナーに参加して(村井正子)
 - 実践女子大学・短期大学図書館の事例と DOAJJ について(寺升夕希)
- * 本の紹介 第 6 回「和本入門：千年生きる書物の世界」(赤澤久弥)

5) 支部報 No.269(2009/04/15 発行)

- * 大図研京都ワンディセミナー開催のご案内
- * 『滞在型図書館』を目指して(大図研近畿 4 支部新春合同例会「公共図書館の運営と施設－田原市中央図書館を例に」(森下 芳則氏) 参加報告)(上村孝子)
- * 図書館ニュースブログ『カレントアウェアネス・R』の舞台裏(上山卓也)
- * 本の紹介 第 7 回 統計学を学ぶ(山田裕子)
- * 支部報 No.268 に関するお詫び
- * 異動 / 退職に伴うアドレス / 住所変更のご連絡のお願い

6) 支部報 No. 270(2009/06/15 発行)

- * 大学図書館問題研究会第 32 回京都支部総会のお知らせ
- * インターネットの海で、安全で適切に溺れる法(西川真樹子)
- * 中国短期研修体験記(野間口真裕)
- * 大学図書館問題研究会第 32 回京都支部総会第 1 号議案
- * 大学図書館問題研究会第 40 回全国大会のご案内

なお、現在、支部報のバックナンバーを国立国会図書館への納本や電子化により、適切に保存していく方策を検討しています。また、支部報に掲載された原稿は従来から寄稿者の希望により支部サイトで公開していますが、新たに機関リポジトリ等への掲載指針を策定し公表しました。

(3) ホームページ、メーリングリスト、メールマガジン

ホームページでは、イベントのお知らせや、支部活動の記録等を定期的かつ迅速に掲載しています。また、支部報目次発行年月日の遡及入力(除 No.151~169)を完了するとともに、執筆者名を記載しました。2009年6月22日現在、6,067アクセスを得ています(アクセスカウンター設置:2006年8月22日)。

メールマガジンは、「大図研京都支部 NewsLetter」として、no.60(2008年9月1日)から no.81(2009年6月25日)を発行しました。支部委員会議事録、支部企画案内等を随時送信することで支部活動をお知らせするとともに、月1回のイベント案内を定期的に発行し、好評を得ています。

(4) 組織活動

会員数は、年度末現在 67 名で、年度当初と同数です。会員数変動の内訳は、新規入会者 5 名、退会者 5 名です。定年退職に伴う退会がありながらも、新規会員を得ることであります。2008 年度は勧誘活動の一環として、1.(1)のセミナー案内チラシ送付にあたり、入会案内を併せて送付しました。また、新入会員受付時の対応をマニュアル化し体制の整備をはかりました。

加えて、支部委員会の連絡および情報共有体制の強化のため、フリーの Web サービスを利用して、支部委員会連絡用メーリングリストの移行と運営マニュアルの共有化を実現しました。

(5) 財政

昨年度に引き続き、支部委員会の重点課題として、会費納入率の向上に努めました。結果、継続課題であった長期滞納者 0 名を達成することができました。また、所定の会費徴収スケジュールに則った計画的な督促業務を行うことによって、未納率を下げることができました。各年度の未納率は次のようになっています。2006 年度以前 0 %、2007 年度 2 %、2008 年度 12 %、2009 年度 68 %。

2. 2009 年度活動方針

(1) 研究交流活動

会員のニーズに応じた研究活動の充実をはかり、会員の専門的力量形成に役立てるため、セミナー等を 3 回程度、開催します。また会員間のコミュニケーションの促進や研究交流活動の周知等のため、支部報の発行のほか、ホームページの充実、メーリングリストの運用、メールマガジンの発行について、一層の努力をします。さらに地域における積極的な参加を促すため、京都の大学図書館等、関連する組織への広報も継続していきます。

(2) 支部報

今年度も継続して、定期発行と正確で読みやすい誌面作成に努めます。自己啓発や会員間交流の場としての支部報のみならず、より多くの会員に「発表の場を提供する」支部報となるよう努力します。

(3) ホームページ、メーリングリスト、メールマガジン

京都支部の活動に関する情報をわかりやすくかつ迅速に提供するため、ホームページを随時更新するとともに、メールマガジンを定期的に発信するように努力します。また会員間コミュニケーションの促進のため、ホームページの会員リンクやメーリングリストを引き続き提供します。なおホームページ維持費の節減やコンテンツ拡大に対応するため、プロバイダーの変更等の方策を検討します。

(4) 組織活動

大学図書館問題研究会および京都支部の活動を説明し、会員を増やす活動を進めます。セミナーをはじめあらゆる機会をとらえ、関連組織への広報の実施と入会の勧誘に務めるだけでなく、魅力的な会報づくりや有益なセミナーの開催、会員交流の場の提供等、充実した支部活動を行います。

(5) 財政

所定の会費徴収スケジュールに従い、個々の会員へ個人別会費納入状況のお知らせや振込用紙の発送を今年度も引き続いて行うことで、会費納入率の向上に引き続き努めるとともに、長期滞納者を作らないため、滞納の兆候が見られた段階での積極的な督促を行います。また支部活動費の削減・効率化のため、2.(3)のとおり、経常支出であるホームページ維持費の見直しを行います。なお、節約の結果として積み立てられた予備費を効果的に活用する方策として、セミナーの開催数の増加等、研究交流活動の一層の充実策を検討します。

2008年度決算(2008.7~2009.6)及び
2009年度予算(2009.7~2010.6)

2008年度決算案(2008.7~2009.6)

総収入	総支出	差引残高
512,319	160,945	351,374

■収入の部

項目	予算	決算	差引額	備考
前年度繰越金	324,479	324,479	0	
2010年度会費	0	2,500	-65,000	1名(@2,500円)
2009年度会費		62,500		25名(@2,500円)
2008年度会費	77,500	70,000	7,500	28名(@2,500円)
2007年度会費	37,500	10,000	12,500	4名(@2,500円)
2006年度会費		5,000		2名(@2,500円)
2005年度会費		2,500		1名(@2,500円)
2004年度会費		2,500		1名(@2,500円)
2003年度会費		2,500		1名(@2,500円)
2002年度会費		2,500		1名(@2,500円)
支部報購読会費	0	0	0	0名(@2,000円)
セミナー参加費	15,000	8,500	6,500	12月(8,500円),5月(0円)
寄附金	0	19,170	-19,170	
口座利子	0	170	-170	
合計	454,479	512,319	-57,840	

※会費内訳(支部会費2,000円+支部還元金500円)

■支出の部

会報	80,000	51,930	28,070	印刷(15,340円)/送料(36,590円)
研究交流会費	100,000	72,468	27,532	12月(56,538円),6月(15,930円)
支部活動費	30,000	5,000	25,000	
事務費	20,000	15,136	4,864	会費振込手数料(3,080円)
HP維持費	16,380	16,380	0	
口座税金	0	31	-31	
予備費	208,099	0	208,099	
合計	454,479	160,945	293,534	

2009年度予算案(2009.7~2010.6)

□収入の部

項目	予算	備考
前年度繰越金	351,374	
2009年度会費	102,500	41名*2,500円
未納会費	20,000	2008年度:7名*2,500円
		2007年度:1名*2,500円
支部報購読会費	0	(1名:2009年まで前納済)
セミナー参加費	22,500	
合計	496,374	

□支出の部

会報	80,000	印刷費(30,000円)/送料(50,000円)
研究交流会費	210,000	
支部委員活動費	30,000	
事務費	20,000	
HP維持費	16,380	
予備費	139,994	
合計	496,374	

2008年度大学図書館問題研究会京都支部会計監査報告

帳簿および現金は適正に保管・記載されていた。

2009年7月23日

大館 和郎 (印)

井上 敏宏 (印)

2009年度大学図書館問題研究会京都支部役員

支部委員 (50音順)

- 赤澤 久弥 (奈良教育大学学術情報研究センター図書館)
池田 貴儀 (日本原子力研究開発機構研究技術情報部)
大綱 浩一 (京都大学附属図書館)
坂本 拓 (京都大学文学研究科図書館)
辰野 直子 (滋賀医科大学附属図書館)
長坂 和茂 (京都大学経済学部図書館)
西野 紀子 (立命館大学図書館メディアセンター (委託職員))
野間口 真裕 (京都大学工学研究科・工学部地球系図書室)
山下 ユミ (京都府立医科大学附属図書館)
渡邊 伸彦 (京都大学附属図書館)

監査委員

- 呑海 沙織 (筑波大学大学院図書情報メディア研究科)
原竹 留美 (京都大学人間・環境学研究科総合人間学部図書館)

全国委員

- 大綱 浩一 (京都大学附属図書館)

<大学図書館問題研究会第32回京都支部総会 議事メモ・補足事項>

会員の皆様に支部総会当日の様子を知って頂くために、簡単に当日の様子をお知らせします。

1. 赤澤支部長から第1号議案について説明があり、質疑応答と意見交換の後、原案のとおり了承されました。
2. 渡邊支部委員から第2号議案について説明があり、質疑応答と意見交換の後、原案のとおり了承されました。
3. 支部委員、監査委員、全国委員については、第3号議案のとおり選出されました。

○また、ご参加頂いた会員の方々からは、下記のようなご意見をいただきました。

- ・(第1号議案に関して) 京都支部のWebサイトについて、Google Analyticsを導入すれば、より多様な統計をとることができ、支部活動のさらなる改善に役立てられるのではないかと。
- ・(第2号議案に関して) 会費長期滞納者がほぼいなくなり、健全な財政状態になったことは評価できる。今後も現在の状態を維持できるように努めていただきたい。
- ・総会により多くの会員に参加してもらおうべきではないか。

○加えて、下記のような質疑応答がなされました。

発言 : 新年度活動方針の中で、HP 維持費削減やコンテンツ拡大対応のためにプロバイダー変更に関する検討を挙げているが、予算案では今年度と同額が計上されている。この点、具体的に説明がほしい。

回答 : 本部契約サーバによる支部サイトホスティングプランへの参加を検討している。維持費圧縮が可能であるとともに、サイト容量も現状10Mから1G程度への増加が見込まれるため、支部サイトのコンテンツ増にも対応できるものである。ただ移行時期が未定で維持費の具体的な圧縮幅が不分明であるため、今年度と同額の維持費を計上しているものである。

発言 : 今年度の支部報記事は、単発原稿が多かったように思うが、新年度については、連載企画等の予定はあるか。

回答 : 支部報の安定的発行の観点からも連載企画は行いたいと考えている。また、新年度には、会員から希望する記事テーマを求める取り組みも検討したい。

発言 : 昨年度の総会で、セミナー企画の参加費を参加者の身分等により変えることの提案があった。今年度を実施したセミナーの参加費の設定について、説明してほしい。

回答 : 昨年度は1000円という参加費の設定があったことによる提案と認識している。今年度実施したセミナーの参加費は500円だったため、一律額とした。新年度に実施するセミナー参加費をある程度の金額とする場合には、あらためて検討したい。

発言 : 新年度活動方針の中で、セミナー等を3回程度実施するとしているが、具体的な企画案はあるのか。

回答 : 現時点で具体的には立案していないが、今年度にセミナー企画候補の案は出している。それらも踏まえて、単発もしくは連続セミナー等の形による実施について、検討を進めていく。また、会員から希望するテーマを求めることも考えたい。

いただいた貴重なご意見をふまえて、今後の支部活動を運営していきます。引き続き、支部活動へのご参加と支部運営へのご協力をお願いいたします。

また、支部活動へのご意見・ご要望等がありましたら、ぜひ 電子メール
dtkk@rg7.so-net.ne.jp (大学図書館問題研究会京都支部) までお寄せください。

大図研京都ワンディセミナー

『場としての図書館』を形に-京都大学附属図書館ならびに人間・環境学研究科総合人間
学部図書館の例』参加報告

京都支部ワンディセミナーに参加して

伊賀 由紀子

6月13日、京都支部のワンディセミナー『場としての図書館』を形に-に参加させてもらった。今回のセミナーは京都大学人間・環境学研究科総合人間学部図書館の「環 on」と附属図書館の見学をメインに「場所としての図書館」を考えるという企画であった。

まず環 on、附属図書館の見学があり、その後それぞれの案内役を務めてくださった原竹さんと、山崎さんによる発表があった。

<環 on>

環 on の第一印象はまず、「こんな図書館があるものだろうか？」

普通、図書館には資料がある。場合によっては閲覧スペースだけというものもあるが、大体においては、資料がある建物の中、もしくは隣接している。ところが、環 on には資料はみあたらない。そして、図書館とは建物は別。道を挟んだ上に、入口も図書館側ではない。

それより不思議なのは、全く図書館らしくないインテリア。とくに4つのエリアに分かれている環 on のなかで、多目的スペースとして位置づけられている楕円のテーブルを中心に据えたスペースは、どう見ても小洒落たバー。なんじゃこりゃ・・・と首をひねったのは恐らく私だけではないだろう。

「はて、このスペースを一体どのように考えたらいいのだろうか？」と当惑気味の我々見学者であったが、この日の案内人である人環・総人図書館の原竹さんがしてくださった説明で、少しずつ、その謎が解けてきた。

かいつまんで紹介すると、このスペースは元々、人環・総人図書館の分室として、以前書架と事務室があった場所だそうである。研究科の耐震工事のおかげで、新しい書架スペースができたため、空きスペースとなった。ここをどのように利用すべきかと、いろいろと検討した結果、図書館が手放すという選択肢もあったなかで、やはり図書館のスペースとして利用者に開放することにし、ワーキンググループを立ち上げたとのこと。当初は、前々から要望の強かった個室やグループ学習室といった利用も考えたが、どうせなら全く新しいタイプの空間を創ろうと知恵を絞り生まれたスペースだそう。斬新なインテリアは普段はバーなどのデザインをしているデザイナーによるものとか。

4つのエリアは「多目的スペース」「カウンター席」「くつろぎスペース」「グループ学習室」に分かれ、それぞれが違った雰囲気を持ち、利用者が好みに合わせて利用できる。コンセプトは「交流」。環 on という名前も「人と人がつながり、環をなし、新しい活動が生まれる」ことを願って名付けられた。

利用者は学生から教員までさまざま。「話せる図書館」と銘打ってはいるが、一人でノートパソコンを拵げ研究に没頭している利用者もいるらしく、利用形態も利用者の思い思いに任されたフレキシブルな空間である。映画会をはじめ各種イベントにも利用されてい

る。

原竹さんによるとラーニング・コモンズも意識して考えたということだが、開館時にはTAが常駐していて、データベースの利用などの学生の相談にも対応できるそうだ。

正直なところ、かなり贅沢な空間である。このスペースがあったら何を作るか？と自分にあてはめて考えてみてもこのような施設は浮かび上がってこない。しかし、他に類のない空間なだけに、図書館員の想像を超えたところで、何かが生まれてくる可能性を秘めているようにも思える。環 on という名のおり、各種イベントなどを通じてできた新しいつながりが、種となって実を結ぶことを期待したい。

<附属図書館と学習室24>

さて、附属図書館の方である。ここで最近注目を浴びているのは24時間利用可能な学習室として1月からオープンした「学習室24」だが、今回のセミナーで実はそれだけではなく、図書館本体もさまざまな利用者の要望をくみ上げて大幅な改修を行っていたということを知った。

学習室24のスペースを生むために、1Fの新聞や雑誌のコーナーを移動させ、長いカウンターを短くしただけでなく、3Fにあった事務スペースを4Fにまとめてすべて利用者スペースに置き換えたそうである。案内をしてもらっている間は改修前の姿がどのようなものであったかのイメージがなかったので、あまりピンときていなかったが、後でゆっくり図面などをみると、かなりのスペースが新たに利用者のために提供されたことになる。具体的には3Fには300席近くの閲覧スペースができ、共同研究室が1室から5室に、研究個室が7室から14室に。また情報端末も76台から100台に追加された。

見学したときの3Fの印象は「明るく、開放的」で、これはおそらくガラスの壁で仕切ることによって圧迫感を感じさせない空間になっているからだろう。あまりにも雰囲気がいいのでここを利用できる京大の学生がちょっぴりうらやましくなった。

そして「学習室24」。こちらはセキュリティを守るために、図書館の他のスペースとは完全に切り離すことができるようになっている。入口も図書館とは独立しており、入室だけでなく、退室時にもかならず利用証による認証が必要である。防犯カメラが設置され、夜間は警備員が配置されるなど、厳重なセキュリティ管理がなされている。安全確保については、計画立案時点から図書館職員側が気を使った点であったが、特に警備員の配置などについては教員の後押しにより実現に至ったとのことである。

入室するとまず「なごみ」という飲食が可能なスペースが手前にあり、その奥が「自学24」で無線LANが使える閲覧席が90席用意されている。実は24時間を謳ってはいるが、清掃を行う時間として朝の9時から10時までの1時間は閉室される。ただし、この時間については図書館本体の方が開館するため、学習スペースとしては24時間保証されるということで「24」としたそうだ。ただし、土日祝日は午後の5時で閉室される。

運用を始めてから、最初は退室時の認証忘れ等のトラブルはあったそうだが、特に大きな問題もなく試験期には大盛況で学生には大変喜ばれているようである。

ここで感心したのは、24時間学習室設置の話が出たという機会を逃さず、若手職員を中心に利用者の要望をいかに実現するか議論を交わし、結果として快適な学習空間を創り上げたという点である。比較的短期間のうちに、これだけのことをやりとげたというのは、やはり常日頃から職員それぞれが自分の「夢の図書館」像を持っていたからではないか、そのように感じた。

<場としての図書館の創造>

今回紹介された「環 on」と「学習室24」の例は、必ずしも図書館として提供しなければならない、という場ではない。実のところ最初はそう思っていた。従来の図書館は「資料・施設・人」で成り立つものとされてきた。その点でいうと、資料を配置しない単なるスペースであるならば、大学として学部・研究科なり、その他の組織なり、図書館以外で

用意されても特に問題はないように思われる。

しかし、資料のオンライン化が進み、図書館へ足を運ばなくても一定、研究・学習が可能になっている今、利用者が望む快適な研究・学習の「場」、そして利用者間の知的交流の「場」を創造し、提供するというのも、たとえそれが図書館の枠を超えたところにあったとしても、我々図書館員の重要な任務となってくるのかもしれない。今回のセミナーに参加し、少し考え直させられた。このような機会を与えてくださった京都支部の皆様へ感謝したい。

いが ゆきこ (大阪市立大学学術情報総合センター)

大図研京都ワンディセミナー

「『場としての図書館』を形に—京都大学附属図書館ならびに人間・環境学研究科総合人間学部図書館の例」参加報告

大図研京都支部ワンディセミナーの感想

久保山 健

■ はじめに

2009年6月13日(土)、標記のセミナーに参加させていただきました。

テーマは最近話題の「場としての図書館」であり、名前からは想像が付かない「環 on」(わおん)や、24時間利用できる場所を目指した「学習室 24」も含まれており、期待して参加させていただきました。

■ 環 on(わおん)見学

よく知られているように、ダーク系の家具やカーペットで、「夜な」雰囲気でした。

奥側というか窓と離れたエリアは、照明も控えめで落ち着いた雰囲気でした。個人的には、読書や仕事をするには少し暗いと感じましたが、利用も多いようなので、そういうのもありなのだと考えを改めました。

印象に残ったのはポスターやハガキ大の広報資料(いわゆるグッズ)です。

業者さんに有償で作成してもらったようですが、このような工夫をするだけで、発信できるイメージも大きく変わるので、素晴らしいと感じました。

一方、あえて要望を書かせていただくと、やはりゴミ箱は一つくらいほしいと感じました。

説明の中では、ゴミ箱があると逆にゴミが散らかるといった説明がされたように記憶していますし、そのような説もたまに聞きますが、実際のところどうなのでしょう。数年前は、ゴミ箱のない空港で、ゴミ箱を求めてさまよったこともあるので、せめて1つくらいはあってもいいのかもしれない。

もう一つ書かせていただくなら、飲食ももう少しゆるくできないかと感じました。忙しい時に飲食しながら仕事をしている自分と比較すると怒られるかもしれませんが、キャップ付き飲料の持ち込みを認める図書館も増えてきていますし、ゆっくりと自由に使える場所でしたので。

とは言え、落ち着いた雰囲気の空間ができたことは素敵だと思いますので、今後もより快適に滞在できる空間であってほしいと感じました。

■ 京都大学附属図書館、「学習室 24」見学

附属図書館の改修と、それに合わせた「学習室 24」の設置について、説明していただきました。

やはり、改修はたいへんだと感じましたが、担当された山崎さんの積極的な姿勢も印象的でした。「市水」「井水」という水道専門用語(!?)が出てきたことから、建物の設計も考慮しつつ進められたことがうかがえました。

「学習室 24」内部のエリアの分け方、警備員の契約、入り口の自動扉についての悩みなど、リアルな場面でお聞きするのも有意義でした。

こんな風に改修などに伴う場所の使い方の変更についての具体例をお聞きすることによって、「場としての図書館」や快適で使ってもらいやすい空間を作るアイデアを蓄積することもできると感じました。

個人的な希望の一つは、追い出せ参考図書 かな!?

■ その他

発表いただいた 2 名の方、準備いただいた京都支部の方、どうもありがとうございました。懇親会も含め、楽しく参加させていただきました。(以上)

くぼやま たけし(大阪大学附属図書館)

◇ 会費納入のお願い ◇

会員みなさまにおかれましてはご健勝のことと存じます。

大図研会費および京都支部会費の納入をお願いしているところですが、納入率は依然思わしくない状態にあります。既に 2009 年度(大図研会計年度 2009.07 - 2010.06)に入っておりますので、2009 年度の会費の納入をお願い致します。また、2008 年度以前の会費をお納めいただいていない会員のみなさま、一刻も早い会費の納入にご協力いただきますようお願い致します。

会費は、¥7,000 (大図研会費：¥5,000+京都支部会費：¥2,000) です。

会費は下記口座に郵便振替でお送りいただくか、お近くの支部委員におことづけください。

郵便振替振替口座番号 01090-4-5904 大学図書館問題研究会京都支部

また、ご不明な点は大学図書館問題研究会京都支部 (dtkk@rg7.so-net.ne.jp)、または支部委員(組織・財政担当)の渡邊伸彦(〒606-8317 京都市左京区吉田本町 京都大学附属図書館資料管理掛気付 渡邊宛 電話：075-753-2647) まで。